

植	物	
防	疫	
講	座	

虫害編（物理的・耕種的防除編）-2

水稲を加害するスクミリンゴガイの物理的・耕種的防除

福岡県農林業総合試験場 病害虫部 し清 みず水 のぶ信 たか孝

はじめに

スクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata*（通称ジャンボタニシ）（図-1）は南米原産の淡水巻貝の一種で、1980年ごろに食用目的として養殖業者により日本へ持ち込まれたものが野生化して、国内の水田や用排水路、池、クリーク等で生息するようになった。このうち水田では生育初期のイネの茎葉をおう盛に食害し、欠株や著しい生育不良を引き起こす（図-2）。当初は九州など温暖な地域の水田で本種による水稲の被害が大きな問題となっていたが、近年では関西や東海、関東などでも本種の被害が拡大している。

本種は日本や世界の侵略的外来種ワースト100に指定されており、繁殖力が極めて強いことから、被害防止対策は化学農薬だけでなく総合的な対策を講じる必要がある。そこで本稿では、水稲のスクミリンゴガイに対する化学的防除以外の方法、すなわち物理的防除、耕種的防除について解説する。

I 水路からの侵入防止対策

スクミリンゴガイは水路を伝って拡散、定着し、これらの一部が隣接する水田内に取水時や多雨による浸冠水によって侵入する。水路は本種の主要な侵入経路となることから、本種の発生が見られる水路から直接取水するような水田では、取水口に網等を設置して本種が水田内に侵入するのを防止する（図-3）。この際、網の目合いが細かすぎると目詰まりしやすく、逆に粗すぎると十分な侵入防止効果が期待できないので、目合いの選定には注意が必要である。山中ら（1989）が行った試験によると、イネ苗に激しい被害を引き起こすスクミリンゴガイの大きさは殻高2 cm以上と考えられる（表-1）ことから、当年の被害回避を目的として網を設置する場合は目



図-1 スクミリンゴガイ（上：成貝，中：卵塊，下：取水口付近に多数集まっている様子）

Physical and Cultural Control for Apple Snails on Rice Plant.
By Nobutaka SHIMIZU

（キーワード：浅水管理，捕殺，ジャンボタニシ，侵入防止，冬季の耕うん）